

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	66.5 (1.02)	60 (0.88)	44.1 (0.88)	61 (1.0)
R5 正答率の全国比		0.89		0.97

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 「国語」「算数」ともに全国を下回ったが、「算数」は県と同等であった。
- 「国語」は平均正答率が県・全国を大きく下回り、「話すこと・聞くこと」領域に課題がある。
- 「国語」では、正答率が低かったのは「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」という記述式設問で、無回答率が高かった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が県・全国と比較して低く、漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。
- 「算数」は「図形」と「変化と関係」領域に課題があり、三角形の意味や性質の理解と、底辺と面積の関係を基に面積の大小について説明する設問で、県・全国を下回っていた。
- 平日、土日ともに家庭学習の時間が1時間以上と回答している割合が、県・全国と比較して高い。
- 国語の授業で、「立場や考えの違いを意識して話し合い、自分の考えをまとめているか」の設問に92%が肯定的に回答しているが、より効果的な指導方法を工夫する必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 各教科とも、正答数に個人差が見られたことから、個に応じた指導の工夫が必要である。
- 算数科では、校内研究の取組(ノートパワーアップ作戦)を中心に、算数用語・図・式を使って自分の考えをノートに書く指導を継続していく。また、友達の考えと比較し自分の考えを整理して書くような場の設定を行い、表現し分かりやすく伝える方法を身に付けさせるようにする。
- 既習事項とのつながりを持たせたり、振り返りをもとに次の学習につなげたりして、系統的な指導を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- サマースクール(8月22, 23日)を開催し、夏休みの課題の補充指導を行う。
- 家庭学習強化週間を年2回(6月, 11月)設定し、家庭学習の定着を図るとともに、家庭の教育力の向上を目指す。また、自主学習を奨励し主体的に学習に取り組ませる。
- 家庭学習の内容を工夫し、条件作文等で書く力の向上を図り、前学年・前単元の復習を取り入れ知識・技能の定着を図る。

